

DIPL 通信第 170 号をお届けします。

高校生の皆さんは中間試験が終了しほっとし、来月に入ると中学生の期末試験となります。日頃の学習の成果を試すのが定期試験です。だからこそ、日頃の学習習慣を付けなくてははいけませんね。

定期試験が解けるかどうかの判断の目安は、問題文を読んで頭にそのイメージが浮かぶかどうかです。浮かべばそれに続いて解き方(〇〇が出れば◇◇が出てくる等々)が付いてくる場合が多いです。テスト前に確認出来るチャンスがあります。それは学校ワークを解くときです。最初は解法が浮かばなくても、繰り返し解くことで身に付くチャンスです。定期試験のために、学校ワークを大いに利用しましょう。

さて、今回の DIPL 通信は GW を利用した「屋久島への旅」をご報告します。

DIPL 代表小島裕一

## 「いのちの森」屋久島への旅

朝 3 時 30 分起床、4 時 30 分宿舍出発。午後 4 時までの 11 時間 30 分の「念願の縄文杉」トレッキング。体力に自信のなかった私は、体力を付けるための 5 年間とっていいかもしれません。屋久島は一カ月 30 日で 35 日雨が降るといぐらい雨に恵まれた島です。5 月 2 日はご多分に漏れず、一日中雨予報で、雷注意報というオマケつき。「そんな予報で出発出来るんですか？」の質問に、ガイドさんは「警報が出ていないから大丈夫だよ！」と驚くばかりです。歩き出しから縄文杉までの約 5 時間、帰りは約 3 時間のトレッキングです。結果、一時の晴れ間 5 分以外ほぼ全ての時間が強弱織り交ぜての雨降りでした。レインウェアを着込んでいても、外から雨が容赦なく染み込み、内からは汗が出て、縄文杉に辿り着く前ですでに上から下まで、内からも外からも全てビショビショです。でも、苔に囲まれた「屋久杉」と床の間でよく見かける「ヒメシャリ」の木々の枝や葉っぱたちが、よく降る雨をさえぎってくれました。あれっ？雨がやんでいる！と勘違いさせてくれる時もあった位です。時々吹く強い風は空気の上昇気流から来るもので、この風が吹くと数時間後に強雨が降る！という前触れだったことをガイドさんは雨が強くなってから教えてくれました。

行きの行程 5 時間の最初の 3 時間は上り一辺倒のトロッコ道、ひたすら歩きます。併行して流れる川の豊富な水音がトレッキングする自分たちへの応援歌となって後押ししてくれます。その川には直径 5 メートルはありそうな花崗岩の岩々が敷き詰められているのです。しかも、その川はとても澄んでいます、水藻が一切なく透明です。有機物濃度がとても低い軟水で、川魚も住めないということです。屋久島登山ではそれこそ飲み水を持たずにチャレンジ出来るとまでいわれています、高所でも給水所がいくつもあるからです。

そして、トロッコ道から別れ、登山開始！ 早々から屋久杉の切り株があちこち出てきます。高度が上がるにつれて、その太さが増していきます。驚くのは切り株や倒木が苔に覆われて残っているのですが、そのほとんどから杉の木の子・ツツジ他の木々が芽生えて、立派に大きく育っているのです。江戸時代から屋久杉の伐採が始まったようですが、薩摩藩への年貢の支払いの代わりとして伐採した屋久杉を当てたようです。現在の登山道はその運び出しルートだったそうですが、山奥からあのような大木をどうやって運び出したのでしょうか？かなりの高低差がある山道を歩きながら考えてしまいます。昭和 40 年代後半からは、杉の大木や切り落とされた大木がヘリコプターも使いながら運ばれたようです。植林も同時進行で進めていったようで、直径 50 余 cm の立派な杉に育っていました。

そうした中、大きなコブがあるばかりに「商品価値のなかった」縄文杉(直径約 5 m、周囲 16 m で屋久島一番の大木)が現在にまで奇跡的に残ったようです。面白いもので、こうした「商品価値のなかった屋久杉達(樹齢 1000 年を超える屋久杉)」が世界遺産の登録理由になったのです。樹齢 2000 年ともいわれる縄文杉はその木株の根元近

くは中心部が空洞となってしまう、中心部がないために年輪から樹齢を調べる事が出来ない、予測樹齢しか分からないのだそうです。

行程中唯一太陽を見たのは5分間。それは「縄文杉」にたどり着いた時で、そのパワーを倍増してくれました。自然保護のため縄文杉には触ることは出来ませんでした。正面から、右から、左からしっかりと見て、拝むことも出来ました。バッチリです。

そして、翌日は宮崎駿監督が何回も訪れて映画の構想を練ったといわれる、「白谷雲水峽しらたにうんすいきょう(通称：もののけの森)」への約4時間のトレッキングです。豊富な水が流れる白谷川の支流の随所に広がる豊かなシダと苔の風情を見ると、映画の各場面が思い出される気になり心を和ませます。「こだま」達に巡り合うことが出来なかったことは残念。

前記した通り、屋久島が世界自然遺産に登録された理由は、縄文杉を始めとするたくさんの樹齢1000年超の屋久杉と共に、屋久島の植生にあるとのことでした。海辺の亜熱帯気候（沖縄の植生）から九州一番の高さを誇る海拔1936mの宮之浦岳では亜寒帯気候（北海道網走地方の植生）までの草木が原生林（人の手が入っていない状況）でそのまま残っていることが大きな理由だそうです。

「百聞は一見にしかず」 今回の旅を終えて、本物に触れてこそ、ものの判断の助けになるということ学びました。日本人であるならこの「屋久島」を通して、日本の2000年の歴史を感じる事が出来る「いのちの森」ではないかと。生徒の皆さん、保護者の皆様、一生で一度は足をお運びください。